

検索ボックス

検索

[<< 肺炎に抗生剤の時短療法 | TOP | ブルガダ症候群・Brugada症候群 >>](#)

2022年08月24日

[<< 2025年04月 >>](#)

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

最近の記事

- [\(04/15\) 吻合部潰瘍とNSAID](#)
- [\(04/14\) 胃切除後の吻合部潰瘍・解熱鎮痛薬の影響](#)
- [\(04/11\) 急性心不全のループ利尿薬の適正化・BAN-ADHFスコア](#)
- [\(04/09\) 電子タバコは若者に有害](#)
- [\(04/07\) 不明熱](#)

最近のコメント

- [鉄欠乏性貧血における鉄剤の服用 by \(09/13\)](#)
- [23価肺炎球菌ワクチンの局所反応 by \(07/11\)](#)
- [急性心不全のランソックスの効果減弱 by \(06/10\)](#)
- [小児の腸重積・ロタウイルスワクチンとの関係について by \(05/02\)](#)
- [II型糖尿病患者にスルホニル尿素薬の有効性について by \(04/19\)](#)

タグクラウド

カテゴリ

- [小児科\(267\)](#)
- [循環器\(324\)](#)
- [消化器・PPI\(193\)](#)
- [感染症・衛生\(334\)](#)
- [糖尿病\(164\)](#)
- [喘息・呼吸器・アレルギー\(129\)](#)
- [インフルエンザ\(120\)](#)
- [肝臓・肝炎\(67\)](#)
- [薬・抗生剤・サプリメント・栄養指導\(59\)](#)
- [脳・神経・精神・睡眠障害\(78\)](#)
- [整形外科・痛風・高尿酸血症\(45\)](#)
- [ワクチン\(99\)](#)
- [癌関係\(14\)](#)
- [脂質異常\(32\)](#)
- [甲状腺・内分泌\(22\)](#)
- [婦人科\(22\)](#)
- [泌尿器・腎臓・前立腺\(65\)](#)
- [熱中症\(7\)](#)
- [日記\(32\)](#)
- [その他\(105\)](#)

過去ログ

- [2025年04月\(7\)](#)
- [2025年03月\(13\)](#)
- [2025年02月\(14\)](#)
- [2025年01月\(16\)](#)
- [2024年12月\(14\)](#)
- [2024年11月\(12\)](#)
- [2024年10月\(13\)](#)
- [2024年09月\(14\)](#)
- [2024年08月\(12\)](#)

小児の急性中耳炎の第一選択薬はペニシリン系

小児の急性中耳炎の第一選択薬はペニシリン系

<短報>

Amoxicillin versus other antibiotic agents for the treatment of acute otitis media in children



アメリカの小児科学会AAPガイドラインでは、小児の中耳炎に対してアモキシシリン（ペニシリン系 本院ではバセトシン、サワシリン、ワイドシリン）が第一選択薬としています。しかし、ワクチンエラー（ワクチンの時代）で小児の肺炎球菌ワクチンが普及により、肺炎球菌に代わり、H.インフルエンザ菌とM.カタラーシスが、急性中耳炎の原因菌として台頭してきています。これらの菌は、アモキシシリンに対して耐性傾向です。そのため、実地医家はブロードスペクトル（カバーする菌種が広い）の抗生剤を使用する傾向です。それでも実際の処方頻度は、ナロースペクトルのアモキシシリンが56.6%と一番多い傾向で、その中10日間処方率が93%を占めています。本研究は、アモキシシリンと他の抗生剤を比較検討しています。

- 6か月から12歳の小児を対象にしています。入院を必要とする症例や、チューブ治療をしている症例、合併症を有する症例は除外しています。2018年に外来及び、救急受診した1,051,007症例です。処方割合は、アモキシシリンが56.6%、セフゾンが20.6%、アモキシシリン+クラバモックスが13.5%、ジスロマックが9.3%処方されています。

- 主要転帰は、治療不良と再発です。治療不良とは、同じ抗生剤を2~14日間継続。再発は、受診後15~30日と定義しています。処方開始は、受診後1日以内が98%です。

3) 結果

治療不良、または再発は、アモキシシリンが2.2%、セフゾンが10.0%、アモキシシリン+クラバモックスが11.3%、ジスロマックが9.8%でした。急性中耳炎において、治療不良と再発は一般的に稀ですが、アモキシシリンが一番優れていました。

4) 考察

小児の急性中耳炎においては、H.インフルエンザ菌とM.カタラーシスは、自然治癒の傾向です。この事が、アモキシシリンに優位に働いていると推測しています。

私見)

近医の一部の耳鼻科では、時に中耳炎にフルスペックに処方されていることが多い印象です。門外漢と、専門家の忌憚ない話が必要と常に感じています

[Amoxicillin versus other antibiotic agents for the treatment of acute otitis media in children - The Journal of Pediatrics.pdf](#)

- [2024年07月](#)(15)
- [2024年06月](#)(14)
- [2024年05月](#)(14)
- [2024年04月](#)(12)
- [2024年03月](#)(14)
- [2024年02月](#)(13)
- [2024年01月](#)(19)
- [2023年12月](#)(17)
- [2023年11月](#)(13)
- [2023年10月](#)(15)
- [2023年09月](#)(12)
- [2023年08月](#)(16)
- [2023年07月](#)(15)
- [2023年06月](#)(14)
- [2023年05月](#)(15)
- [2023年04月](#)(15)
- [2023年03月](#)(15)
- [2023年02月](#)(14)
- [2023年01月](#)(15)
- [2022年12月](#)(12)
- [2022年11月](#)(16)
- [2022年10月](#)(15)
- [2022年09月](#)(13)
- [2022年08月](#)(17)
- [2022年07月](#)(13)
- [2022年06月](#)(15)
- [2022年05月](#)(15)
- [2022年04月](#)(14)
- [2022年03月](#)(15)
- [2022年02月](#)(14)
- [2022年01月](#)(16)
- [2021年12月](#)(14)
- [2021年11月](#)(17)
- [2021年10月](#)(17)
- [2021年09月](#)(13)
- [2021年08月](#)(16)
- [2021年07月](#)(12)
- [2021年06月](#)(16)
- [2021年05月](#)(16)
- [2021年04月](#)(14)
- [2021年03月](#)(18)

以降はカテゴリーで検索してください。

[RDF Site Summary](#)
[RSS 2.0](#)

0

0

いいね!

ポスト ブックマーク

【小児科の最新記事】

- [電子タバコは若者に有害](#)
- [鳥インフルエンザに注意すべき事](#)
- [血球食食性リンパ組織球症](#)
- [小児へのワクチンの筋肉内注射](#)
- [アメリカにおけるジェネリック薬品の不足](#)

posted by 斎賀一 at 21:21 | [小児科](#)